

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム連携施設情報

目次

1.	平鹿総合病院	2
2.	筑波大学附属病院	3
3.	筑波記念病院	6
4.	J Aとりで総合医療センター	8
5.	千葉大学医学部附属病院	9
6.	日本医科大学千葉北総病院	11
7.	東京ベイ・浦安市川医療センター	13
8.	国立国際医療研究センター国府台病院	15
9.	東京医科歯科大学病院	18
10.	東京大学医学部附属病院	20
11.	東京大学医科学研究所附属病院	21
12.	同愛記念病院	23
13.	青梅市立総合病院	24
14.	榎原記念病院	26
15.	大森赤十字病院	28
16.	国立がん研究センター中央病院	30
17.	東京都立広尾病院	32
18.	東京都立大久保病院	34
19.	東京都立大塚病院	35
20.	東京都立駒込病院	37
21.	東京都立豊島病院	39
22.	東京都立荏原病院	41
23.	東京都立多摩総合医療センター	43
24.	東京都立東部地域病院	44
25.	東京都立神経病院	46
26.	東京都立松沢病院	49
27.	横須賀共済病院	51
28.	静岡県立静岡がんセンター	53
29.	静岡てんかん・神経医療センター	55
30.	国立循環器病研究センター	55
31.	川西市立総合医療センター	57
32.	奈良県立医科大学附属病院	59

1. 平鹿総合病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
平鹿総合病院	564	270	4	10	7	17

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
平鹿総合病院	×	○	○	×	○	△	×	○	△	△	×	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 2】 4) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修施設として50年の歴史がある。 施設内には研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 適切な労務環境が整備されている。 メンタルストレスに適切に対応する部署が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室等が配備されている。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	内科指導医が10名在籍している。消化器・糖尿病、循環器、血液内科は症例も多く指導医も充実している。当院の連携施設間は地理的にも近く、人的にも交流が盛んで連携がスムーズに行われている。また、病理専門医が2名常勤し、24時間病理解剖に対応しており、月1度のCPCでは毎回2~3例の症例が提示される。当院にはJMECC指導医が在籍し、講習を自院で主催している。他施設からの参加者も多い。医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催し、専攻医に参加の時間を与えている。
認定基準【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち7分野以上、70疾患群のうち35以上の疾患群について定期的に専門研修が可能である。内科剖検例は毎年15例前後あり、専攻医一人当たり1~2例は経験可能である。
認定基準【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	臨床研究が可能な環境が整っており、倫理委員会も設置されている。秋田県農村医学研究所が併設され、学会発表の統計処理などに協力できる。
指導責任者	専門研修プログラム（基幹施設）統括責任者 深堀 耕平
指導医数(常勤医)	日本内科学会認定指導医10名、日本内科学会総合内科専門医7名、日本消化器病学会専門医3名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医1名

外来・入院患者数	内科全体の外来患者延べ人数 7,0418人/年、内科全体の退院患者数 2,738人/年 (2019年度)
経験できる疾患群	消化器・循環器・代謝・血液・腎臓・総合内科的な疾患を中心とする多数の疾患群
経験できる技術・技能	消化管内視鏡、心臓カテーテル診断・治療、中心静脈や各種体腔穿刺など
経験できる地域医療・診療連携	秋田県南部の地域中核病院の急性期医療および近隣の公的病院との医療連携

2. 筑波大学附属病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
筑波大学部附属病院	800	229	12	98	66	20

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
筑波大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院として2018年は72名、2019年54名と多くの研修医が在籍する県内唯一の医学部併設の大学病院です。 大学の図書館が利用可能な他、図書館が契約する2000以上の英文ジャーナルを病棟でオンラインジャーナルとしてフルテキストで読むことができます。 また、すべての病棟、研修医室にインターネット環境があります。 産業医、総合臨床教育センター専任医師がメンタルストレスに適切に対処します。また、院内には定期的に産業カウンセラー（外部）が面談を行っており、個人からの申し込みで面談が可能です。 ハラスマントは大学全体各部署に専用窓口があります。 現在院内に220人を超える後期研修医が研修していますが、約4割が女性です。女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室（ロッカーリ室）、仮眠室、シャワー室、当直室などが整備されています。また、女性支援のため、総合臨床教育センターにキャリアコーディネーター（専任医師）があり、出産・育児など女性のキャリアを支援する体制があります。 大学敷地内に保育所があり利用可能です。7時半～22時まで対応しており、土日も可能です。（年度途中からの短期利用の場合要相談）また、院内には病児保育室があり8時30分～18時位まで病児保育が可能です。職員用の搾乳室が整備されており、常時利用することができます。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が98名在籍しており、県内唯一の特定機能病院として各分野にスペシャリストが揃っております。従来より数多くの後期専門研修医を育成してきた実績があり、指導体制が確立しております。 連携施設として内科専門研修研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される研修管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しております。各講習会はビデオ講義で受講することが可能であり、中途採用者も全員受講することが義務付けられております。各年間1回以上日本専門医機構認定講習を開催しております。 内科の各分野は院内で複数診療科およびコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを定期的に開催しており、専門性の高い診療を行っております。また、研修施設群合同カンファレンスや研究会、講演会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 院内の全剖検症例は剖検検討会（CPC）で検討します。毎月数回開催しております。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のすべてにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会、各Subspecialty領域学会において数多くの演題を発表しております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。
指導責任者	檜澤伸之

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>筑波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。</p> <p>新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。</p> <p>また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。</p> <p>ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 98名、日本内科学会総合内科専門医 66名、日本消化器病学会消化器専門医 17名、日本循環器学会循環器専門医 28名、日本腎臓病学会専門医 9名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会血液専門医 11名、日本神経学会専門医 6名、日本糖尿病学会専門医 6名、日本内分泌学会専門医 2名、日本リウマチ学会専門医 12名、日本感染症学会専門医 2名、日本臨床腫瘍学会専門医 1名、日本アレルギー学会専門医 2名、日本肝臓学会専門医 9名、日本老年医学会専門医 2名、他
外来・入院患者数	外来のべ人数 136416人・日/年、入院患者のべ人数 84980人・日/年 ※2019年度データ
経験できる疾患群	全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。
経験できる技術・技能	特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。
経験できる地域医療・診療連携	地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定専門医研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など。他にも多くの各学会の教育認定施設になっています。

3. 筑波記念病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
筑波記念病院	487	130	9	12	14	5

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
筑波記念病院	×	○	○	△	△	×	○	○	○	△	×	△	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 労務環境について内科研修委員会および労働安全管理委員会で管理する。 ハラスマント相談室（臨床心理士）が設置されており、随時相談を受け付ける。 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室や更衣室、当直室（シャワー、仮眠）が整備されている。 敷地内の保育施設等があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は12名在籍している。 内科研修委員会を院内に設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績医療倫理2回、医療安全12回、感染対策19回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 研修施設群合同カンファレンス（2021年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 CPCを定期的に開催（2020年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 地域参加型のカンファレンス（2019年度実績11回）を定期的に参画し、専攻医は受講を努力義務とし、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、血液、消化器、循環器、代謝、内分泌、アレルギーの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

	専門研修に必要な剖検（2020年度実績 5 体）を行っている。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019年度実績 4 演題）をしている。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績 8 回）している。 ・治験審査委員会を設置し、受託研究審査会を開催（2019年度治験審査案件なしのため委員会開催なし）している。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。
指導責任者	<p>長澤俊郎</p> <p>【内科医専攻医へのメッセージ】</p> <p>筑波記念病院は茨城県つくば市に位置し、平成 24 年より地域支援病院として、つくば医療圏の地域中核病院としての機能を果たしている。地域支援病院の認定を受けたあとは、地域完結型病院へと発展している。また、地域に密着した地域医療の中核をなす当院で臨床研修を積むことは高度な内科臨床能力を基礎にした患者に寄り添う優れた医師を育てられる環境・医療水準を有している。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,362 名（1か月平均） 入院患者 5,600 名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例についても経験できる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本循環器学会循環器研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本血液学会血液研修施設、日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本不整脈学会/日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本脈管学会認定研修関連施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本神経学会准教育施設など

4. JAとりで総合医療センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
J Aとりで総合医療センター	414	179	8	15	16	11

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
J Aとりで総合医療センター	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	臨床研修指定病院である、研修医用の居室がある。医師室では個人で持ち込んだパソコンでも通信できるような体制をとっており、電子媒体での文献検索が出来るように病院で契約している。また紙媒体の文献検索もできるように図書室もある。安全衛生委員会が設置され、過剰時間外勤務者などへのメンタルヘルス管理、指導を行っている。女性医師に対しては女性用当直室（シャワー完備）や保育所を設置して、安心して勤務できるように配慮している。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	2021年度は消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、神経内科、内分泌代謝内科、膠原病内科の常勤医がおり、全科にサブスペシャリティー専門医と総合内科専門医が在籍している。その他に非常勤として心療内科、総合内科医が勤務し、筑波大学の感染症専門医も週1回勤務して院内症例のコンサルテーションを引き受け、夕方に勉強会も開催している。年間の剖検数は10件前後で、年6回前後のCPCを開催している。これまで医療安全、感染の職員勉強会は年2回ずつ開催しており、専攻生も参加を義務付ける。今後は複数のプログラムに参加している専攻生が当院で研修を行うことになり、それぞれのプログラムの基幹施設との連携や合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス等も積極的に開催して、多角的な眼をもった内科専門医を養成する。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	内科8分野（内分泌と代謝を分けると9分野）で総合内科専門医、指導医が常勤して指導体制は整っているが、その他の分野の症例も多く、定められた症例数を当院だけで経験することは可能であるが、補完する形での関連施設における研修を予定しており、日本内科学会が要求する基準は十分にクリアできる。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	倫理委員会が設置されており、これまで内科学サブスペシャリティー科は、認可された臨床研究を精力的に行ってきており、今後も変わることはない。医師は年1回以上の学会発表が義務付けられており、日本内科学会関東

	地方会も毎回演題登録を行って発表している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 JAとりで総合医療センターは、茨城県取手・龍ヶ崎医療圏の基幹病院としての役割を果たすべく、東京医科歯科大学と連携をとりながら診療を行っている。内科系においては、すべてのサブスペシャリティー科で専門医を配置し、各診療科とも指導体制は整っている。また救急だけでなく、回復期、生活維持期の医療体制も充実しており、1施設で全病期を理解することが出来る稀有な病院であると考えている。
指導医数(常勤医)	内科指導医 15 名 総合内科専門医 16 名
外来・入院患者数	外来患者数 (2019年度実績) 340,169 人 内科系外来患者数 142,944 人 入院患者数 (2019年度実績) 126,451 人 内科系入院患者数 61,443 人
経験できる疾患群	専門医がいない科においても症例は豊富にあり、非常勤医師等から専門的な教育を受けることができ、当院で日本内科学会が要求する症例は経験することができる。
経験できる技術・技能	症例の主治医、担当医となりながら、症例を受け持ち、検査、診断、治療を行なうながら診療技術、技能を獲得することができると考えている。
経験できる地域医療・診療連携	病病連携、病診連携とも体制は整っており、さらに訪問看護ステーションも併設しているため、訪問診療も可能となっている。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会・認定医教育病院、日本循環器学会・認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会・認定研修関連施設、日本消化器病学会・専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会・認定指導施設、日本呼吸器学会・認定施設、日本腎臓学会・研修施設、日本高血圧学会・専門医認定施設、日本透析医学会・教育関連施設、日本神経学会・教育施設、日本認知症学会・教育施設、日本血液学会・認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構・認定研修施設、日本脳卒中学会・認定研修教育病院、日本アレルギー学会・準教育施設、日本輸血・細胞治療学会 I&A 認定施設

5. 千葉大学医学部附属病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
千葉大学医学部附属病院	789	214	11	79	61	13

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急

千葉大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-----------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要なインターネット環境があり、病院内で UpToDate などの医療情報サービスの他、多数の e ジャーナルを閲覧できます。敷地内に図書館があります。 ・労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり、病児保育も行っています。院内に学童保育園があります。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 79 名在籍しています。（2020 年 4 月現在） ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC およびキャンサーボードを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全ての疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な設備として、敷地内に図書館がある他、各診療科にも主要図書・雑誌が配架されています。多数の e ジャーナルの閲覧ができます。 ・臨床研究に関する倫理的な審査は倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。倫理委員会のメンバーは内部職員および外部職員より構成されています。 ・専攻医は日本内科学会講演会あるいは同地方会の発表の他、内科関連サブスペシャリティ学会の総会、地方会の学会参加・発表を行います。また、症例報告、論文の執筆も可能です。
指導責任者	桑原 聰
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 79 名、日本内科学会総合内科専門医 61 名、日本消化器病学会消化器専門医 22 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 24 名、日本内分泌学会専門医 11 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 18 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 27 名、日本血液学会血液専門医 14 名、日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本アレルギー学会専門医（内科）6 名、日本リウマチ学会専門医 18 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本老年医学会専門医 5 名、消化器内視鏡学会専門医 17 名、臨床腫瘍学会専門医 4 名、ほか

外来・入院患者数	内科外来患者 179600 名/年 内科入院患者 5800 名/年 (2019 年度)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本老年医学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、ステントグラフト実施施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本神経学会専門医研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本認知症学会教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設など

6. 日本医科大学千葉北総病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
日本医科大学千葉北総病院	574	196	7	18	8	5

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
日本医科大学 千葉北総病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県印西市にある 574 床の私立医科大学付属病院です。 初期臨床研修制度の帰還形研修指定病院であり、内科専門医研修のための基幹施設でもあります。 研修に必要な図書室、自習室とインターネット環境があります。 当院後期研修医と同等の労務環境が保証されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されています。 敷地内に保育施設があり、事前登録により利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 18 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 施設実地調査に対応可能な体制があります。 プログラムに指導医の在籍していない施設（特別連携施設：診療所や過疎地病院、あるいは研究施設等を想定）での専門研修が含まれる場合には、指導医がその指導を行えるような工夫をしています。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野の専門研修が可能な症例数を診療しています。 2018 年度の実績では、70 疾患群のうち 62 の疾患群について研修可能でした。 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会にて発表を行っています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018 年度実績 12 回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回）しています。 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	宮内靖史
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、他
外来・入院患者数	外来患者 89860 人/年 入院患者数 4876 人/年
経験できる疾患群	総合内科・循環器・消化器・内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・救急の 10 分野、62 疾患群
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

	・内科初診・救急当番において、1次・2次救急患者の治療および初診外来での診療を指導医の監督下で経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本心血管インターベンション学会研修施設、日本てんかん学会研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝化認定教育施設、日本糖尿病学会教育認定施設、日本動脈硬化学会専門医認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設

7. 東京ベイ・浦安市川医療センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京ベイ・浦安市川医療センター	344	154	9	20	14	12

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京ベイ・浦安市川医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスマント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・職員用保育所があり、利用可能です。
---------------------------	--

認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 24 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域医療講演会、ミニ循環器学会、救急プレホスピタル勉強会、消化器病カンファレンス等；）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2020 年度 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体、2019 年度 14 体、2020 年度 12 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 16 回、審査 124 件）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表（2017 年度実績 12 演題、2018 年実績 9 演題）をしています。
指導責任者	江原 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です。年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり、豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます。患者層も若年～超高齢者まで幅広く様々です。当院では総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し、症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により、幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます。 またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修（手技やコンサルト業務等）を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 4 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本消化管学会専門医 1 名、日本胆道学会指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名、日本集中治療医学会専門医 5 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,281 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 8,639 名 (延べ人数 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本胆道学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療医学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

8. 国立国際医療研究センター国府台病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立国際医療研究センター国府台病院	435	200	10	20	14	11

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立国際医療研究センター国府台病院	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。・研修に必要な図書室、インターネット環境（医中誌、電子ジャーナル、Up To Dateなど）があります。 ・国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課長担当）があります。 ・「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています。・女性専攻医が安心して勤務できるように、シャワー室、更衣室、当直室などが整備されています。 ・敷地内に院内保育所（0から6歳）があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度における内科学会指導医は20名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・臨床研究講習会・医療安全（年2回は必修）・感染対策（年2回は必修）・NST講習会（年2回）を定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（内科系では2016年度実績5回、2015年度6回、2014年度6回、2013年度8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査には医療教育部門が対応します。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち血液内科と腎臓内科、アレルギー、神経内科を除く全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち大部分の疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な内科の剖検（2016年実績10体、2015年11体、2014年9体、2013年11体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要なインターネット環境（医中誌、電子ジャーナル、Up To Dateなど）や臨床研究支援室や図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2013年度実績5演題、2014年度実績4演題、2015年度実績4演題）を行っています。 ・臨床研究治験センター、臨床研究支援室などがあり、レジデントにも、症例報告だけでなく、臨床研究にも積極的に取り組んでもらって、糖尿病学会や消化器病学会をはじめとする国内学会総会や国際学会で発表し、また英語論文の指導も行っています。
指導責任者	酒匂赤人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は中規模病院であり、内科の全領域の

	<p>常勤専門医がいるわけではありませんが、研修医やレジデントの教育に力を入れており、十分な臨床経験を積み、内科認定医、総合内科専門医、各内科系専門医などがとれるように手厚い指導を行っています。</p> <p>内科は大きく3つに分かれ、肝炎・免疫研究センターを併設し、研究・診療体制の充実した消化器・肝臓内科、摂食障害や心身症を中心とした診療で我が国有数の心療内科、各内科系診療科が垣根を低くして相互に連携して総合的に診療する統合内科があります。</p> <p>前身が精神・神経医療センターだったこともあり、現在も精神科診療に強く、今後も本邦での重要性が増していく精神疾患を合併した内科疾患のマネージメントにも習熟することができます。</p> <p>国立研究開発法人であることから、研究のリソースは充実しており、また若手医師の臨床研究を積極的にすすめているため、指導を受けて学会発表や論文作成をする機会も十分にあります。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医(新制度) 24名、日本内科学会総合内科専門医 14名、日本消化器病学会専門医 9名、日本肝臓学会専門医 7名、日本循環器学会専門医 2名、日本内分泌学会専門医 0名、日本糖尿病学会専門医 4名、日本腎臓学会専門医 0名、日本呼吸器学会専門医 1名、日本血液学会専門医 0名、日本神経学会専門医 0名、日本アレルギー学会専門医 0名、日本リウマチ学会専門医 3名、日本感染症学会専門医 1名、日本老年医学会専門医 2名、日本救急医学会専門医 0名
外来・入院患者数	内科外来患者 5769名(1ヶ月平均) 内科入院患者 216名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 分野、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会専門医制度関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本老年医学会認定施設、日本感染症学会研修施設、日本心療内科学会認定研修施設、日本心身医学会認定研修診療施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本動脈硬化学会認定教育病院、日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本整形外科学会研修施設、日本眼科学会研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本病理学会研修認定施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本臨床細胞学会教育研修認定施設、日本精神神経学会精神科専門医研修施設、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設、日本精神科看護協会精神科認定看護師制度指定実習施設、日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本ペインクリニック学会指定研修施設

9. 東京医科歯科大学病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京医科歯科大学 医学部附属病院	753	202	9	127	93	23

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京医科歯科大学 医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従う。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されている。 ・ハラスマント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能である。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医が127名在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2019年度開催実績7回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講

	<p>を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 東京医科歯科大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能である。 臨床倫理委員会が設置されている。 臨床試験管理センターが設置されている。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 10 題の学会発表を行っている。(2019 年度実績) 内科系学会の後援会等で年間 181 題の学会発表を行っている。(2019 年度実績)
指導責任者	<p>内田 信一 【メッセージ】 東京医科歯科大学内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年 70~100 名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。 新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成する体制を構築しました。</p>
指導医数(常勤医)	認定内科医 165 名、総合内科専門医 93 名、消化器病学会 41 名、肝臓学会 17 名、循環器学会 18 名、内分泌学会 5 名、腎臓学会 12 名、糖尿病学会 8 名、呼吸器学会 17 名、血液学会 10 名、神経学会 34 名、アレルギー学会 5 名、リウマチ学会 22 名、感染症学会 3 名、老年医学会 3 名、救急医学会 0 名
外来・入院患者数	外来患者数 : 549,118 人 (2019 年度合計) 入院患者数 : 238,022 人 (2019 年度合計)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本老年医学会認定施設、日本老年精神医学会認定施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、学会認定不整脈専門医研修施設、日本脈管学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本神経学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、認知症学会専門医教育施設
--	--

10. 東京大学医学部附属病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京大学医学部附属病院	1226	421	11	180	164	26

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修制度における基幹型研修病院です。 専門研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 東京大学医学部附属病院として労務環境が保障されています。 メンタルストレス・ハラスメントに適切に対応する部署があります。 敷地内にキャンパス内保育施設があり、利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます CPCを定期的に開催します。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> 内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計25演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	泉谷 昌志（医学教育学部門講師）

指導医数(常勤医)	180人
外来・入院患者数	外来患者数 685,156人 入院患者数 358,647人 (2018年度実績)
経験できる疾患群	定められた70疾患群を幅広く経験できます。
経験できる技術・技能	疾患の診断と治療に必要な医療面接、身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を、指導医からのフィードバックをうけながら行うことができます。
経験できる地域医療・診療連携	連携施設である地域の中核となる総合病院での研修を通じ、内科専門医に求められる役割を実践することができます。また、連携先の医療レベル維持にも貢献できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設

1.1 東京大学医科学研究所附属病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京大学医科学研究所 附属病院	122	87	4	16	22	11

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京大学医科学研究所 附属病院	△	○	×	△	△	×	×	○	×	×	○	○	×

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 専攻医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、なんでも相談室）があります。 東京大学ハラスメント相談所が整備されています。
---------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	<ul style="list-style-type: none"> 内科学会指導医が 16 名在籍しています（下記）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研究倫理研修会、臨床試験研修会を定期的に開催しています。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、感染症、アレルギーおよび膠原病、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>四柳 宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京大学医科学研究所附属病院は感染症、膠原病、血液疾患に関して専門的な診療を行っている病院です。医科学研究所の附属病院という性格をもち、新しい医療の開発を目指した臨床研究や先端医療の開発にも力を入れています。小規模病院の特徴を活かして各科の連携も緊密であり、患者様に質の高い医療を提供しています。アカデミックな雰囲気に触れながら、専門的な診療にじっくりと取り組んでみたい内科専攻医の方々を歓迎いたします。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本血液学会専門医 14 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、 日本感染症学会 3 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数 96.5 人（1 日あたり） 入院患者数 43.4 人（1 日あたり）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、「血液」「感染症」「膠原病および類縁疾患」において十分な症例の経験ができ、それに付随する疾患に関しても経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	近隣のクリニックからの紹介症例や、総合病院との診療連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設

12. 同愛記念病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
同愛記念病院	373	139	7	8	6	17

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
同愛記念病院	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	臨床研修指定病院である。 研修に必要なインターネット環境が整備されている。 適切な労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ハラスマント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、シャワー室、当直室が配慮されている。 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	指導医は8名在籍している。 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えていた。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えていた。 CPCを定期的に開催（2015年度は6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えていた。 地域参加型のカンファレンス（墨田症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えていた。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	代謝領域については、糖尿病教育入院が常時行われており、5疾患群すべてを研修できる。内分泌領域については、主に甲状腺疾患、副腎疾患の研修が可能である。腎臓領域においては7疾患群のうち6疾患群（間質性腎炎を除く）において研修が可能である。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室などを整備している。 倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 治験委員会を設置し、定期的に開催している。

指導責任者	三宅敦子
指導医数(常勤医)	日本内科学会研修指導医 5名、日本内科学会総合内科専門医 7名、日本循環器学会循環器専門医 2名、日本内分泌学会専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 2名、日本腎臓学会専門医 2名、日本呼吸器学会専門医 2名、日本血液学会血液専門医 3名、日本アレルギー学会専門医 1名
外来・入院患者数	糖尿病代謝内科として 外来患者 1,064 名、入院患者 190 名 腎臓内科 外来患者 136 名 (2016年1月実績 腎臓内科については4月から常勤医が着任している)
経験できる疾患群	代謝領域の 5 疾患群すべて、および内分泌領域では主に甲状腺疾患、副腎疾患を研修できる。腎臓領域に関してはすべてを研修できる。
経験できる技術・技能	糖尿病患者における血糖管理、合併症管理、患者教育、周術期血糖管理、妊娠中の血糖管理、ケトアシドーシスの管理、内分泌機能試験 慢性腎臓病患者の教育・管理、血液透析および腹膜透析の導入・管理、経皮的シャント血管形成術、腎生検、腎炎およびネフローゼ症候群の診断・治療、急性腎障害の管理、血漿交換やエンドトキシン吸着療法などの特殊な血液浄化療法
経験できる地域医療・診療連携	地域参加型のカンファレンス（墨田症例検討会）を通じ、地域に根差した医療の在り方を学ぶことができる
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会教育関連施設

13. 青梅市立総合病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
青梅市立総合病院	562	270	8	21	16	13

表2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
青梅市立総合病院	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 青梅市非常勤医師として労務環境が保障されています。
---------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスマント委員会が青梅市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室当直室が整備されています。 ・隣接する敷地に病院保育所（うめっこはうす）があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、研修施設群で行われる講習会を周知し、受講を進めます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（西多摩地域救急医療合同カンファレンス、西多摩医師会共催内科症例勉強会、循環器研修会、呼吸器研究会、消化器病研究会、糖尿病内分泌研究会、脳卒中連携研究会など；2015 年実績 21 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年 14 体、2014 年度 18 体、2015 年度 13 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 7 演題の学会発表を行っています。（2015 年度実績） ・詳しくは年報を参照ください。
指導責任者	<p>指導責任者名 大友 建一郎</p> <p>青梅市立総合病院は、東京都西多摩医療圏の中心的な急性期、3 次救急病院です。山岳部を抱え、核家族化による高齢者一人身世帯、都区内の後方病院、介護施設が多く、超高齢化する地方と同様の問題を抱え、急性期医療を行うと同時に地域医療を行っています。</p>
指導医数(常勤医)	<p>内科指導医数：22 名 *非常勤含む</p> <p>内科指導医数：21 名 *常勤医のみ</p> <p>総合内科専門医数：16 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者数：55,015 名・内科系外来患者数：19,606 名（2015 年実績）</p> <p>入院患者数：11,451 名・内科系入院患者数：5,446 名（2015 年実績）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・

診療連携	病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本救急医学会指導医指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会日程血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設など

14. 榊原記念病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
榊原記念病院	307	232	1	14	15	2

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
榊原記念病院	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所・病児保育があります。 病院6階に専攻医宿舎を完備しており、独身者(単身者)であれば利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 循環器内科の研修ではCCU、心臓カテーテル検査・治療(PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療(カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス(内科カン

	<p>ファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス）、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2020 年実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的に開催し専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。 卒後 3-6 年の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2021 年度は 7 件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。
指導責任者	七里守
指導医数(常勤医)	14 名
外来・入院患者数	外来：78,661 名 入院：9,320 名 (2021 年度)
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実施の診療に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験出来ます。
学会認定施設(内科系)	日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定 研修施設、日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会専門医 研修施設、日本脈管学会認定 研修指定施設、日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医 研修施設、日本動脈硬化学会専門医制度 教育病院経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術 指導施設、日本核医学会専門医 教育病院、日本超音波医学会認定 超音波専門医研修施設、日本成人先天性心疾患学会認定 成人先天性心疾患専門医 総合修練施設、日本内科学会認定医制度審議会推薦 教育関連 特殊病院、NCD 施設会員、関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部大動脈瘤ステントグラフト実施基準による血管内治療の実

	施設、関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施基準による血管内治療の実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、血管内レーザー焼灼術実施・管理委員会認定下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設、日本心血管インターベンション治療学会認定 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会、日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定 経皮的動脈管閉鎖術施行施設、日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会、日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定 経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設、日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設、経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術[クライオバルーン (Arctic Front Advance)] 実施施設、経皮的カテーテル心筋焼灼術[ホットバルーン (SATAKE・Hot Balloon)] 実施施設、経皮的カテーテル心筋焼灼術[レーザーバルーン (Heart Light)] 実施施設、パワードシースによる経静脈的リード抜去術認定施設 レーザーシース (Evolution) 実施施設、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会/経カテーテル肺動脈弁置換管理委員会認定 経カテーテル的肺動脈弁留置術実施施設
--	--

15. 大森赤十字病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
大森赤十字病院	344	172	7	18	16	7

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
大森赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 大森赤十字病院 常勤医師として労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 内科系学会 28 演題）を行っています。
指導責任者	<p>北里 博二</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。</p>
指導医数(常勤医)	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 18 名在籍している（下記）。 <p>日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本血液学会認定指導医・専門医、日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医、日本プライマリケア連合学会指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医 ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 598.0 名／日　　入院患者 247.5 名／日（2022 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本神経学会教育施設、日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連施設、日本透析医学会教育関連施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化管学会胃腸科指導施設など

16. 国立がん研究センター中央病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立がん研究センター中央病院	578	322	15	6	22	9

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表 3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。
----------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医は 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2021 年度 多地点合同メディカル・カンファレンス 16 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 9 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会での発表（2021 年度実績 1 件）をしています。 研究倫理委員会を開催（2021 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2021 年度実績 24 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>大江裕一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 30 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本血液学会血液専門医 13 名、ほか
外来・入院患者数	新入院患者数（延数）18,322 名、総外来患者（延数）375,373 名（2021 年度）
経験できる疾患群	1. 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形

	<p>癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。</p> <p>2. 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>1. 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。</p> <p>2. 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会、日本緩和医療学会、日本血液学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本消化管学会、日本消化器内視鏡学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化器病学会、日本精神神経学会、日本胆道学会、日本超音波医学会、日本乳癌学会、日本臨床腫瘍学会など

17. 東京都立広尾病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立広尾病院	478	162	7	17	11	6

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立広尾病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（庶務課担当職員）
---------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスマント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 17 名在籍している(下記)。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 36 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2015 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催(2015 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2016 年度開催実績 1 回:受講者 6 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2016 年度実績 3 演題)を予定している。
指導責任者	市岡 正彦 <p>【内科専攻医へのメッセージ】 広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都の災害拠点病院でもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、気管支鏡専門医 1 名、漢方専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会透析専門医 4 名、日本神経学会認定神経内科専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 55,093 名(2015 年度) 入院患者 26,215 名(2015 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本神経学会准教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施

	設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本救急医学会指導医専門医指定施設設ほか
--	---

18. 東京都立大久保病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立大久保病院	304	124	7	15	12	9

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立大久保病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都保健医療公社非常勤職員として労務環境が保障されている。・メンタルヘルスに適切に対処する研修がある。・ハラスマント研修を実施している。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が15名在籍している(下記)。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014年度実績 医療倫理2回、医療安全9回、感染対策5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・CPCを定期的に開催(2014年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催(2014年度実績 内科、整形外科、外科、婦人科、コメディカル、看護部等)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2014 年度実績 3 演題)を予定している。
指導責任者	若井 幸子 【内科専攻医へのメッセージ】 大久保病院は東京都区西部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本不整脈学会日本心電学会認定不整脈専門の 1 名、日本不整脈学会認定不整脈専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、日本透析医学会透析専門医 6 名、日本移植学会移植認定医 4 名、日本アレルギー学会専門医(内科) 1 名、日本神経学会認定神経内科専門医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,193 名(1 ヶ月平均) 入院患者 6,776 名(1 ヶ月平均延数) (2014 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、腎移植や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院／日本循環器学会認定循環器専門医研修施設／日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設／日本消化器病学会専門医制度認定施設／日本肝臓病学会認定施設／日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設／日本糖尿病学会認定教育施設／日本呼吸器学会認定関連施設／日本透析医学会専門医制度認定施設／日本腎臓学会研修施設／日本神経学会准教育施設ほか

19. 東京都立大塚病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立大塚病院	502	149	8	19	10	11

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急

東京都立大塚病院	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 東京都非常勤医員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課職員担当）があります。 ハラスマント委員会が東京都庁に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は19名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長、腎臓内科医長）、とともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から2017年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績：医療安全12回、感染対策2回、医療倫理は2016年度に開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績：医療連携医科講演会5回、救急合同症例検討会2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（開催準備中）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（2017-2020年度予定）が対応します。 特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では、電話やメールでの面談・Webカンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2014年度実績11体、2015年度11体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015年度実績10回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績10回）

	<p>回) しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2014 年度実績 6, 2015 年度実績 0) を予定しています。</p>
指導責任者	<p>藤江 俊秀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>都立大塚病院は、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり、区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,027 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 213 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医准教育施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

20. 東京都立駒込病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立駒込病院	801	339	12	30	25	44

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立駒込病院	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。・ハラスマント相談窓口が庶務課に整備されている。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が30名在籍している(下記)。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014年度実績: 医療倫理1回、医療安全研修会9回、感染対策講習会3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・CPCを定期的に開催(2014年度実績: 10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンス(2014年度実績: 地区医師会・駒込病院研修会12回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の9分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2014年度実績: 関東地方会7演題、総会2演題)を予定している。
指導責任者	大橋一輝 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の2次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医30名、日本内科学会総合内科専門医28名、日本消化器病学会消化器専門医12名、日本消化器内視鏡学会専門医13名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本腎臓病学会専門医4名、日本透析医学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医6名、日本呼吸器内視鏡学会専門医2名、日本血液学会血液専門医8名、日本造血細胞移植学会専門医4名、日本アレルギー学会専門医(内科)1名、日本リウマチ学会専門医2名、日本神経学会専門医3名、日本肝臓学会肝臓専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日

	本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会指導医 1 名；暫定指導医 3 名、がん治療認定医機構指導医 33 名、日本プライ・マリケア関連学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 29920 名(30 年度 1 ヶ月平均)　　入院患者 1319 名(30 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本リウマチ学会教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本腎臓学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会モデル研修施設、日本プライ・マリケア関連学会認定医研修施設、日本腎臓学会専門医制度研修施設、日本胆道学会指導施設

2 1 . 東京都立豊島病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立豊島病院	411	137	8	16	12	17

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立豊島病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

(○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない)

表 3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都保健医療公社非常勤職員として労務環境が保障されている。
----------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 16 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2019 年度実績；医療倫理 2 回、医療安全 3 回、感染対策 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2019 年度実績 1 回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2019 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 6 演題以上の学会発表(2019 年度実績 6 演題)を予定している。
指導責任者	<p>畠 明宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都保健医療公社豊島病院は東京都区西北部の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。当院の研修の特徴は、多施設に比べ技術習得の機会が多いことにあり、今後のサブスペシャルティを目指す上で有利です。また看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署の連携が取りやすく医療が円滑に行われます。主担当医として入院から退院まで自主性が求められますが、必要に応じて上級医が細かく指導し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1 ヶ月平均 総 14,932 名／うち内科 4,937 名 入院患者 1 ヶ月平均 総 854 名／うち内科 238 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設(内科系)	日本呼吸器学会認定施設、日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本腎臓学会研修施設、東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本老年医学会認定施設、日本輸血細胞治療学会 I & A 認証施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設
-------------	--

2.2. 東京都立荏原病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立荏原病院	461	110	4	14	7	1

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立荏原病院	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○

(○: 研修できる、△: 時に経験できる、×: ほとんど経験できない)

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 ハラスマント委員会が東京都庁に整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 保育料助成制度があり利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は14名在籍している(下記)。 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検を行っている。(2020 年度実績 1 体、2019 年度 19 体)
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2014 年度実績 10 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2014 年度実績 10 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	<p>野津 史彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京都保健医療公社荏原病院は、急性期を主体とし慢性期までの患者を扱う区南部医療圏の中心的な病院です。当院は基幹病院として、都立、公社で連携病院群を形成し、内科専門医の育成にあたります。主担当医としてさまざまな症例を経験し、初診から退院、外来フォローまでを経験していきます。診断と治療を中心とし、患者対応を通じて種々の事態に対応できる内科専門医を育成していきます。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 344 名(1 ケ月平均) 入院患者 191 名(1 ケ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。経験が困難な症例については連携施設での研修が可能(大久保病院等)
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本アレルギー学会専門医教育研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医教育施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定関連施設、日本感染症学会研究施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本がん治療医認定医機構認定研修施設など

23. 東京都立多摩総合医療センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立多摩総合医療センター	805	249	11	10	18	14

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立多摩総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員及び医局担当医師)がある。 ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は25名在籍し、2016年4月には27名になる予定である。 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(手島保副院長)、プログラム管理者(内科責任部長 西尾康英)(ともに内科指導医);専門医研修プログラム委員会で、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置している。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 研修施設群合同カンファレンス(および東京医師アカデミー主催の合同カンファレンス)を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 CPCを定期的に開催(2015年度実績10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2015 年度開催実績 2 回:受講者 12 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。 ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち神経内科を除く全分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。2016 年度より神経内科専門医が赴任し同領域の専門研修が可能となる予定である。 ・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2014 年度実績 34 体、2013 年度 38 体)を行っている。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2014 年度実績 12 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2014 年度実績 12 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	辻野元祥 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立多摩総合医療センターは、東京都多摩地区医療圏の中心的な急性期病院であり、内科の全領域での卓越した指導医陣と豊富な症例数を誇り、東京 ER と救命救急センターでの救急医療も必修とし、総合内科的基盤と知識技能を有した専門医の育成を目指します。東京医師アカデミー制度の中心的存在として 10 年に渡る教育指導の実績もあり、数多くの内科専門医を育成してきました。新制度においては、東京都多摩地区医療圏・千葉県西部医療圏にある連携施設との交流を通じて地域医療の重要性と問題点を学び、また、東京都島嶼にある特別連携施設では僻地における地域医療にも貢献できます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 41 名、日本消化器病学会消化器病専門医 12 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 9 名、日本感染症学会感染症専門医 5 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名、日本プライマリーケア連合学会指導医 3 名ほか
外来・入院患者数	外来患者数 430,133 人 入院患者数 18,254 人
経験できる疾患群	内科全分野の疾患群
経験できる技術・技能	内科新専門医制度カリキュラムに記載された全技術と技能
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特別連携施設である島嶼および奥多摩の診療所で短期(1w から 2w) やおよび長期(3か月) の派遣診療制度があり過疎の僻地での医療が研修できる。 ・地域医師会との医療連携懇話会を定期的に開催し専攻医の参加も推奨している。

学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本内分泌代謝科学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会準認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本感染症学会連携研修施設
-------------	---

24. 東京都立東部地域病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立東部地域病院	314	112	6	12	4	2

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立東部地域病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。適切な労務環境が保障されている。メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。ハラスマント委員会が整備されている。女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が12名在籍している(下記)。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、11の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環 境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を予定 している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 東部地域病院は東京都の城東地域の中心的な急性期病院であり、墨東病院、大久保病院、順天堂大学医学部附属順天堂病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医4名、日本消化器病学会消化器指導医4名、日本肝臓学会暫定指導医・指導医2名、日本心血管インターベンション治療学会指導医1名、日本循環器学会専門医3名、日本呼吸器学会指導医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名ほか
外来・入院患者数	外来患者 91,095名 入院患者 6,589名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13分野のうち70疾患群の症例を経験するこ とができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連 携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本循 環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器 内視鏡学会指導施設、日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設認定施設、日本肝 臓学会認定施設、日本大腸肛門病学会認定施設

25. 東京都立神経病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立神経病院	304	216	1	12	13	11

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総 合 内 科	消 化 器	循 環 器	内 分 泌	代 謝	腎 臓	呼 吸 器	血 液	神 経	ア レ ル ギ ー	膠 原 病	感 染 症	救 急
東京都立神経病院	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があり、それぞれのスケジュールのほか必要な連絡事項等はグループウェアを活用し、情報共有を図っている。 都立病院医師として地方公務員法をはじめ各条令等により労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署(事務局庶務係)があり、院内委員会設置し組織的に対応している。 安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室を整備している。 敷地内に職務住宅と院内保育所があり、それぞれ利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 全国最大規模の神経疾患専門病院であり（総病床数304床、神経内科病床216床）、日本神経学会指導医が13名在籍している（下記）。また、神経内科専門医数は29名と全国最大規模を誇る。 施設内に臨床研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を企画・管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図っている。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し（2019年度実績：臨床研究倫理講習会1回、医療安全10回、感染対策2回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的配慮を行っている。 研修施設群合同カンファレンスとして、「多摩キャンパス神経カンファレンス」「都立病院神経内科合同症例検討会」「TAMEDフォーラム(Tama translational Medical science forum)」などを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的配慮を行っている。 CPCを定期的に開催しており、専攻医に定期的な参加を義務付けている（2019年度実績：8回）。 地域療養支援のためのカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医が主治医の場合は参加を義務付けている（2018年度実績：4回 2019年6回）。

*都立神経病院の専門研修プログラムの特長

- 神経疾患に対する幅広い専門性を持ち、高度専門医療を提供しています。診断や初期治療から呼吸器装着、リハビリテーション、在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経疾患のすべてを、先生ご自身の目で確かめることができます。
- 病床数、専門医数、指導医数は全国最大規模ですので、格段に豊富な症例を経験できます。
- 7つの脳神経内科病棟で研修しながら、神経に関する各診療科（神経生理・神経放射線・神経病理・高次脳機能・リハビリテーション・精神・神経耳科・神経眼科の8部門）でのサブスペシャリティ研修も行うことができます。
- 地域療養支援室を中心とした在宅療養患者に対する往診制度も整備されており、患者を進行期・終末期に至るまで長期にわたりフォローしているため、疾患の全容を把握することができるとともに、患者の「生活の質（QOL）」を重視した医療を学ぶことができます。
- 専攻医向けの講義を定期的に開催しています（2019年度実績：講義数22回）。
- 毎日、指導医から診療指導を受けることができ、加えて週1回の病棟カン

	<p>ファレンスにおいて、すべての受け持ち患者の診療方針を複数の専門医とディスカッションして確認することができます。その際には病棟入院患者全員（32床）の臨床情報を共有し、自分の受け持ち患者のみならず、幅広い知識を身につけることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、新患カンファレンスでプレゼンし、15例前後の新患患者の院長回診に帯同することで、高度な診療技術と最新の学術的知識に触れることができます。さらに医局症例検討会において専攻医が症例提示者もしくは討論担当者となり、臨床における問題点を討議し、知識を深めています。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環 境	<p>*内科領域の「神経」の分野で、規定の「9疾患群」を定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p> <p>2019年度実績：</p> <p>血管障害 49例、感染性・炎症性疾患 87例、中枢性脱髓疾患 78例、神経筋疾患 70例、末梢神経疾患 248例、筋疾患 136例、変性疾患 1425例、認知症 97例、機能性疾患 99例、自律神経疾患 27例、脊椎疾患 25例、腫瘍性疾患 8例、代謝性疾患 18例、内科疾患・先天異常・精神疾患に伴う神経疾患 60例</p>
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会地方会に、年間で1演題以上の学会発表を行っている。 ・日本神経学会学術大会および地方会では多数参加・発表を行っている。またそれ以外の学会（日本臨床神経生理学会、日本神経病理学会、日本神経心理学会、日本神経免疫学会、等）にも発表している。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている（2010年～2018年の研修医筆頭論文数23本、内英語論文20本）。 ・倫理委員会が設置されており、定期的に開催されている（2019年度実績：6回）。 ・治験管理委員会が設置されており、定期的に受託研究審査会が開催されている（2019年度実績：11回）。
指導責任者	<p>蕨 陽子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>私たち都立神経病院は、脳神経内科だけで7病棟・200床以上もある、世界でも有数の神経専門病院です。毎週40～50名の神経難病患者さんが入退院し、脳炎やギラン・バレー症候群で集中治療を行う急性期の患者さんも大勢います。また、診断や初期治療から在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経難病のすべてを自分の目で確かめることができます。学術活動も盛んで、国際学会や論文執筆を誰もが経験できます。</p> <p>都立・公社病院からの3～6ヶ月間の研修の場合、神経学的診察手技と考査技術をしっかりと習得すれば、生涯役に立つと思います。病床数、専門医数、指導医数は全国最大規模なので、短期間でも格段に豊富な症例を経験できます。一方、脳神経内科専攻の先生方には、全国トップレベルの研修の成果として、神経内科専門医試験の合格率はほぼ100%の実績がありますので、皆さんの期待を裏切らない研修ができるはずです。当院での研修を心よりお待ちしております。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医12名、日本内科学会総合内科専門医13名、日本神経学会認定神経内科専門医29名、日本認知症学会専門医5名、日本脳卒中学会専門医3名、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医1名ほか

外来・入院患者数	外来患者 11 人（1 日平均）、入院患者 233 人（1 日平均）
経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> 内科領域の「神経」の分野で、規定の「9 疾患群」（血管障害、感染性・炎症性疾患、中枢性脱髓疾患、神経筋疾患、末梢神経疾患、筋疾患、変性疾患、認知症、機能性疾患（てんかんを含む）、自律神経疾患、脊椎疾患、腫瘍性疾患、代謝性疾患、内科疾患・先天異常・精神疾患に伴う神経疾患）。 急性期の診断・治療から終末期、訪問診療、剖検まで経験できるチャンスがあります。
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> 神経学的診察手技と考察技術の習得：神経学的診察手技は、神経内科専門医が診療報酬として算定できる「神経学的検査」に準じて、意識状態、言語、脳神経、運動系、感覚系、反射、協調運動、髄膜刺激症状、起立歩行等に関する総合的な診察手技を身につけ、それを「神経学的検査チャート」にまとめ、その結果を患者及び家族等に説明できる技術を身につけます。考察技術として、問診と解剖学的診断から導き出される入院時診断と鑑別診断を立案する技術を身につけ、診断確定のための検査計画立案と、適確な治療選択ができるよう指導します。 技能の習得：神経生理学的検査技術（筋電図、神経伝導検査、脳波、誘発脳波など）、神経放射線読影技術（CT・MRI、SPECT、等）、神経・筋生検およびその所見の解釈、剖検例における神経病理学的診断技術、高次機能評価法、神経耳科・神経眼科的診断技術（眼振図など）、また脳深部刺激療法術の経験、などを研修できます。
経験できる地域医療・診療連携	地域療養支援室を中心とした在宅療養患者の支援を行います。具体的には、地域療養を行うにあたって、院内・院外の多職種スタッフによるカンファレンスに参加し、問題点の共有・療養方針の共有確認を行い、在宅療養への準備を行います。退院後は、家庭医との協力のもと、定期的に往診を行い、必要に応じて専門医としての診療方針の決定やアドバイスを行い、必要時の入院受け入れを行います。在宅呼吸補助治療、在宅経管栄養治療、在宅終末期緩和ケア治療など、神経難病に関連した地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育特殊病院、日本神経学会専門医教育施設、小児神経学小児神経科専門医研修施設、日本精神神経学会精神科専門医研修施設、日本老年精神医学学会専門認定施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本てんかん学会専門医研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本プライマリ・ケア認定医研修施設

26. 東京都立松沢病院

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立松沢病院	898	90	5	11	8	3

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立松沢病院	○	○	○	△	○	○	○	×	○	○	△	○	×

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 東京都立病院機構職員として労務環境が保障されている。 メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（庶務課担当職員） ハラスマント相談窓口が機構法人本部に整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が11名在籍している。 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 CPCを定期的に開催（年2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で、定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	林 栄治 【内科専攻医へのメッセージ】松沢病院では、一般内科疾患のほか、精神障害者の身体合併症を幅広く経験することができます。また、精神疾患や精神症状への対応を学ぶことができます。身体合併症医療は、非常にやり甲斐があり、社会的意義の大きな医療です。ぜひ経験してみて下さい。

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本神経学会認定神経内科専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 428 名(平均) 入院患者 708 名(令和 3 年実績)
経験できる疾患群	内科疾患一般、結核を含む感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患、その他多彩な精神科身体合併症を経験出来ます。
経験できる技術・技能	基幹施設と連携して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来る。
経験できる地域医療・診療連携	全都に渡る精神科病院と連携し、多数の身体合併症患者を受け入れ、診療の後は、精神科病院に返送している。また世田谷区、杉並区の地域医療機関として、診療所と連携し、地域医療に対応している。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育関連施設/日本神経学会準教育施設/日本感染症学会教育施設/日本精神神経学会教育施設/日本外科学会教育関連施設/日本整形外科学会教育施設/日本麻酔学会教育施設、ほか

27. 横須賀共済病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
横須賀共済病院	740	333	7	23	21	18

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横須賀共済病院	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表 3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャ
----------------------------	--

	<p>ワ一室、当直室が整備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 23 名在籍している。 ・本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 22 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理部が対応する。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数（全体）：740 床、うち内科系病床：333 床 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 65 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 18 体、2020 年度実績 13 体）である。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験センターが設置している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。 (2020 年度実績 6 演題)
指導責任者	<p>渡辺 秀樹 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として急性期医療を担っています。 特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行ってています。 さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。 また、地域連携病院として横須賀・三浦地区の近隣の病院から、横浜市立大学・東京医科歯科大学の関連病院などがあり、希望にあわせて連携病院での研修も行います。</p>

	当院での研修・連携病院での研修をあわせて最初の2年間での内科専門医研修に必要な症例を網羅できるようにプログラムを組み、最後の1年間はサブスペシャルティ研修が受けられるようしていきます。 かなり多忙な3年間になると思われますが、充実した経験が可能です。 熱意のある先生方からの志望をお待ちしております
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 23名、日本内科学会総合内科専門医 20名、 日本消化器病学会消化器専門医 9名、日本肝臓学会専門医 4名、 日本循環器学会循環器専門医 9名、日本腎臓病学会専門医 7名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本血液学会血液専門医 3名、 日本神経学会神経内科専門医 2名、日本内分泌学会 1名、日本糖尿病学会 2名
外来・入院患者数	外来延患者 140,787名 入院患者 8,886名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本腎臓病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定医制度教育関連施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設、日本心血管インターベンション学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

28. 静岡県立静岡がんセンター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
静岡県立静岡がんセンター	615	300	13	確認中	25	4

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
静岡県立静岡がんセンター	×	○	△	×	×	×	○	○	△	×	×	△	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	指導医が在籍しています。 施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を開催しそのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器を中心に定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。
指導責任者	副院長 小野 裕之
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、日本消化器病学会消化器専門医 29 名、日本消化器内視鏡学会専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 8 名、日本感染症学会専門医 1 名 ほか (2021.3 現在)
外来・入院患者数	総入院患者 15,202 名 総外来患者 304,322 名 (2019 年度)
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 11 領域 49 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療など経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育関連施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会研修認定施設、日本感染症学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本造血細胞移植学会認定施設など

29. 静岡てんかん・神経医療センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
静岡てんかん・神経医療センター	406	確認中	確認中	確認中	確認中	確認中

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
静岡てんかん・神経医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細：確認中

30. 国立循環器病研究センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立循環器病センター	550	300	10	59	45	30

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立循環器病センター	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ハラスマント委員会が総務部に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 59 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2019 年度実績 28 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2019 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門研修に必要な剖検を行っています。（2018 年度 24 体、2019 年度 30 体）
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究が可能な環境が整っています。 倫理委員会が設置されています。 臨床研究推進センターが設置されています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 4 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2019 年度 353 演題）。
指導責任者	<p>野口 晉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 59 名、日本内科学会総合内科専門医 45 名、日本消化器病学会消化器専門医 0 名、日本肝臓病学会専門医 0 名、日本循環器学会循環器専門医 31 名、日本糖尿病学会専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 0 名、日本血液学会血液専門医 0 名、日本神経学会神経内科専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者 640 名（1 日平均） 入院患者 1,036 名（月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 3 領域、9 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本超音波医学会研修施設、日本透析医学会研修施設、日本脳卒中学会研修施設、日本高血圧学会研修施設など

3.1 川西市立総合医療センター

表1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
川西市立総合医療センター	405	119	8	22	6	2

表2 内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
川西市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表3 施設の詳細

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ハラスマント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワーリーム・当直室が整備されています。 提携している保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は6名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に

	<p>設置されている研修委員会との連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2022年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも8分野以上で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2020～2022年度平均3.0体）を行っています。
認定基準【整備基準24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1講演以上に学会発表を行っています。
指導責任者	厨子 慎一郎
	<p>【内科専攻医へのメッセージ】 川西市立総合医療センターは2022年9月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかりわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。 </p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本消化器内視鏡学会専門医4名、日本消化器内視鏡学会指導医4名、日本消化管学会胃腸科専門医2名、日本消化管学会胃腸科指導医2名、日本カプセル内視鏡学会専門医1名、日本カプセル内視鏡学会指導医1名、日本循環器学会専門医4名、日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、日本禁煙学会専門医1名、日本禁煙学会指導医1名、日本呼吸器学会専門医4名、日本呼吸器学会指導医4名、日本呼吸器内視鏡学会専門医1名、日本呼吸器内視鏡学会指導医1名、日本糖尿病学会指導医1名、日本糖尿病学会専門医1名、日本内分泌学会指導医1名、日

	本内分泌学会専門医 1名、日本高血圧学会指導医 1名、日本老年病学会専門医 1名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 9,190 名（1か月平均）　入院患者数 8,554 名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち 8 領域 50 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本透析医学会教育関連施設日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定など

3.2. 奈良県立医科大学附属病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
奈良県立医科大学附属病院	900	231	10	107	65	9

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
奈良県立医科大学附属病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

表 3 施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています。
--------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスマントに係る規程が整備され、必要に応じて委員会が開催されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院の至近距離(50m)に院内保育所があり、病児保育の体制も整っています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 107 名在籍しています。(按分前) (下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の委員会・講習会を定期的に開催 (2021 年度実績 医の倫理委員会 3 回 (書面審議)、医療安全研修会 (e-leaning で 5 種コース実施)、感染対策研修会 (e-leaning で 4 種コース実施)) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス (2023 年度予定) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2021 年度実績 9 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。 (Dr. N プロジェクト)
認定基準 【 整 備 基 準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(連携施設からの按分症例数を含めると充分です)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2021 年度実績 43 演題) をしています。
指導責任者	<p>吉治 仁志</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 107 名、日本内科学会総合内科専門医 65 名、日本消化器病学会専門医 22 名、日本肝臓学会肝臓専門医 22 名、日本循環器学会専門医 35 名、日本内分泌学会専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 13 名、日本糖尿病学会専門医 12 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内

	科専門医 12 名、日本アレルギー学会専門医(内科) 2 名、日本リウマチ学会専門医 6 名、日本感染症学会専門医 8 名、日本老年医学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	一日平均外来患者数 2,257 名(年間延べ外来患者数は 546,261 名) 年間新入院患者 16,759 名(年間延べ入院患者数は 235,638 名)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除き、連携施設群の症例を合わせて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定教育病院、日本内科学会認定専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本動脈硬化学会専門医認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本不整脈心電学会認定認定不整脈専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、TAVR(経カテーテル的大動脈弁置換術)実施施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定専門研修認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設、日本神経病理学会認定施設、日本認知症学会教育施設、日本頭痛学会認定教育施設、総合診療専門研修プログラム基幹施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本環境感染学会認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定施設、日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会認定研修施設 など